

入した全協革反の魔手も、今日に於ては殆んど其の勢力を失ひ、表面的地上の總ての行動は封鎖せられて居るのである。總じて過去に於ては左翼と呼びなされた分子も、最近頗る灰色化し、軟弱化してゐるやうである。

猶茲に左翼労働運動の一派生としての市電従業員内部に於ける消費組合運動について略記する。昭和五年四月の大罷業前夜から、関東消費組合聯盟及消費組合聯合会等の支援指導により、漸次市電内部にその組織の擴大を見られた。消費組合はその数に於て十組合に上り、何れも左翼前職者との関連の下に經營せられてゐる。その全勢時代は昨年春、即ち市電廣尾罷業及横浜市電争議当時と觀ることが出来る。然しその後、城北（南十柱）、城南（廣尾）、西南（青山）、城西（早稲田）等、関東消費組合及勞工社（新宿）、北郊（菜鴨大塚）、東京才一合同（柳島綿糸堀）、麻布（三田大門）等、各自並行的消費組合の組織は依然現存するのであるが、左翼運動の擴大発展の爲に利用せられる傾向を持つと觀られたこれらの消費組合は、今日その前途を著しく閉鎖せられ、經營難或は組合員の氣乗薄の爲、何れもその活動は沈滞して居る。唯本年五月メーデー当日、関東消費組合と協力し、餡パンの廉價供給をしてその使命の一端を果して居

る。組織以末市電内部消費組合中、常にその前衛的立場にあつた西南消費組合も、去る八月廿日限り解散を命ぜられた。

今後に於ける市電内部消費組合運動の消長に就いては予想を許さぬい力ののであるが、概して全協系分子の活動とその運命を共にするものと考へられる。

次に右翼運動に就いて観るに、伊藤誠、宮井昌吉、馬場五四、三浜田藤治郎等久しく東交本部とは別脈を形成して来た舊現實同盟系従業員三百名余が、昨年争議に際し、赤松克麿との連絡に於て、日本主義交通労働組合準備会を組織して同志糾合に努めて居るのであるが、市電従業員の日本主義に對する関心は甚だ微々たるものにして、この準備会と雖も現實同盟以未結ばれたる。伊藤、宮井等元老との交友関係に於いて半は無批判に追隨せるものに過ぎない。

猶最近局外者（別府駿介等）に依つて結成された國家社会主義團體、青年社会主義協議会に對し、三・一五事件解党派従業員小林信吉は同会常任委員となつて加盟した。同人的かゝる行動は、或は再び彼が右團體を足場として市電従業員内部に向つて何等かの運動を惹起せしめんとするの準備行動とも見られるのである。以上述べた如く左右両派の運動は、概して現在その發展性に於て、